

発行日：2026年01月14日

文書番号：G-002-00

改定日

改訂No.

安全データシート (SDS)

1. 化学品及び会社情報

製品名 アクティヴガasket AG-06
会社名 株式会社アサヒ産業
住所 埼玉県川口市朝日4-21-62
担当部署 空調部
電話番号 048-227-5121
ファックス番号 048-227-5122
整理番号 G-002

2. 危険有害性の要約

GHS分類 物理化学的危険性 : GHS分類に該当するデータなし
GHS分類に該当しない他の危険有害性 : 分類基準に該当しない。

但し本製品を加熱すると熱分解生成物が発生する。融点以上に加熱をしたり、長時間260℃以上高熱ばく露させるとポリマーヒューム熱などの原因となる有害性物質や安衛法、PRTR法の指定化学物質に該当するものを発生させ、更に約400℃でフッ化水素やフッ化カルボニルなどが発生し、それ以上の高温に曝すとそれらのガスが大量に発生する。

GHSラベル要素

絵表示 : 該当なし
注意喚起語 : 該当なし
危険有害性情報 : 該当なし
注意書き : 該当なし

3. 組成及び成分情報

(ガasket)

単一製品・混合物の区分 混合物
一般名 四フッ化エチレン樹脂

主要原料・添加物	CAS No.	含有量 (%)
主要原料：ポリテトラフルオロエチレン	9002-84-0	100

(粘着剤)

単一製品・混合物の区分 混合物

一般名 アクリル粘着物

主要原料・添加物	CAS No.	含有量 (%)
主要原料：アクリル酸 2- エチルヘキシル	103-11-7	49.4
リリースライナー（ベース）：セルロースパルプ	65996-61-4	6.5

労働安全衛生法 : 名称等を通知すべき危険物及び有害物（法第57条の2、施行令第18条の2第1号、第2号・別表第9）

アクリル酸 2- エチルヘキシル；法令指定番号：4（>1%）

（りけい紙）

単一製品・混合物の区分 混合物

一般名 紙

主要材料・剥離剤	CAS No.	含有量 (%)
主材料 : セルロースパルプ	65996-61-4	43.6
剥離剤 : ポリフェニルメチルジメチルシロキサン	63148-53-8	0.5

4. 応急措置

- 吸入した場合 : 通常の使用で吸入することはない。但し加熱または燃焼などによって生じるヒュームを吸入した場合は直ちに空気の新鮮な場所に移動させ安静にする。その後異常があれば医師の診断を受ける。
- 皮膚に付着した場合 : 常温では無害。高温熔融状態では火傷を起すため、患部を多量の清浄な水で洗い、冷やした後火傷の応急処置をする。
: 熔融状態のPTFEが皮膚に付着した場合、洗浄後火傷に対する措置を行なう。衣類が皮膚に貼りついている場合、無理に剥がしてはならない。必要によって医師の診断を受ける。
- 眼に入った場合 : 直ちに清浄な水で洗浄し、症状によっては眼科医の診断を受ける。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を継続する。
- 飲み込んだ場合 : 極力吐き出させた後、水で口の中を洗浄し、症状によっては医師の診断を受ける。

5. 火災時の措置

- 適切な消化剤 : 消化器（粉末・泡沫・炭酸ガス）、防火砂、大量の水
- 火災時の特有の危険有害性 : 火災によって熱分解生成物が発生する。ポリマーヒューム熱などの原因となる有害性物質や安衛法、PRTTR法の指定化学物質に該当するものを発生させ、更に約400℃でフッ化水素やフッ化カルボニルなどが発生し、それ以上の高温に曝すとそれらのガスが大量に発生する。

特有の消火方法 : 火災のよっては刺激性、腐食性及び／又は毒性のガスを発生させるおそれがあるため閉鎖された場所における消火にあたっては、酸素ボンベ等の呼吸に必要な酸素を供給することができる装備をした上で消火作業を行なう必要がある。

消火を行なう者の特別な保護具及び予防措置

: 火災中に P T F E が存在する場合は全面マスク空気呼吸式保護具がセットになっている防護服（耐熱服）を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項 : 鼻や口からの摂取、眼に入らないように留意する。

保護具及び緊急措置 : 特に保護具などは必要ない。

環境に対する注意事項 : 環境においては長期間分解せず、環境汚染の原因となるため、河川などに放出しない。海洋生物、鳥類が誤って食べることがあるので、いかなる海洋や水域にも投棄、放出をしてはならない。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

: 地面や床面に落ちた場合、足下を滑らせる危険があるので、速やかに掃き集める。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱いや設備での注意 : 禁煙、周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。

保管上の注意 : 有害性ガスの発生があるため、火気厳禁。直射日光、白熱灯や水銀灯等高温や強い紫外線を出す照明の近くには保管しない。また、保管場所は施錠して保管する。

概要 : 適切な取扱いを行なう限り、人体に悪影響を及ぼしたという報告は、これまでにない。

毒性 : 適用されず。

安全性 : 保管中に微量のフッ化水素ガスの発生が懸念されるため開封は換気の良い場所で行なう。

8. ばく露防止及び保護措置

許容濃度等 : 適用されない

設備対策 : 通常の手扱いは問題ない。但し 260℃以上の加熱を行う工程がある場合は、局所排気装置を設置する。

保護具 : 通常の手扱いは必要ない。但し 260℃以上の加熱を行う工程がある場合は、全面マスク空気呼吸式保護具を着用する。

物理状態	: やわらかい固体
色	: 白色
臭い	: 無臭
融点	: 320～330℃ (PTFE)
沸点又は初留点及び沸点範囲	: データなし
可燃性	: 難燃性
引火点	: 引火しない
分解温度	: 480～490℃[1%TG] (PTFE)
pH	: 該当しない
溶解度	: 水に不溶
蒸気圧	: データなし
粒子特性	: データなし
比重 (相対密度)	: データなし

10. 安定性及び反応性

反応性	: 通常の取り扱いにおいては安定である。
化学的安定性	: 一般的な貯蔵・取扱いにおいては安定である。
危険有害反応可能性	: 一般的な貯蔵・取扱いにおいては安定である。
避けるべき条件	: 高温に曝されると、分解し可燃性ガスを発生する。
混触危険物質	: 火気に近づけない。
危険有害な分解生成物	: 加熱すると熱分解生成物が発生する。融点以上に加熱をしたり、長時間260℃以上高熱暴露させるとポリマーヒューム熱などの原因となる有害性物質や安衛法、PRT法指定化学物質に該当するものを発生させ、更に約400℃でフッ化水素やフッ化カルボニルなどが発生し、それ以上の高温に曝すとそれらのガスが大量に発生する。
酸化性	: 製品中にごく微量の分解ガスが残存する場合があるので、密閉された状態で長期間金属に接触すると、錆を発生させる場合がある。

11. 有害性情報

急性毒性	: 知見なし
皮膚腐食性／刺激性	: 知見なし
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	: 知見なし
呼吸器感作性又は皮膚感作性	: 知見なし
生殖細胞変異原性	: 知見なし
発がん性	: 知見なし
生殖毒性	: 知見なし

特定標的臓器毒性（単回ばく露）	: 知見なし
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	: 知見なし
誤えん有害性	: 知見なし
その他	: 熱分解した場合・・・燃焼した時に生じるヒュームを吸入すると、熱、悪寒、咳など風邪に似た症状（ポリマーヒューム熱）が生じるおそれがある。更に高温で分解するとフッ化水素ガスが発生し、吸引すると息苦しくなり咳がでて、眼や鼻及び咽頭に相当の刺激を生じ、熱や悪寒が数日間続く。場合によって呼吸困難、チアノーゼ及び肺水腫が起こり、肝臓並び腎臓を損傷する。また、フッ化カルボニルなどが発生し、吸引すると皮膚に発疹を生じさせ、角膜や結膜に潰瘍を生じ、肺なども影響を受けて咳、呼吸困難、または息切れなどの一時的刺激を受ける。

1 2. 環境影響情報

生態毒性	: データなし
残留性・分解性	: 生分解性はないと考えられる。
生態蓄積性	: データなし
土壌中の移動性	: データなし
オゾン層への有害性	: データなし

1 3. 廃棄上の注意

廃棄の方法	: 委託する場合は、各自治体の条例に従って許可を受けた廃棄物処理業者に委託する。必ず有害性廃棄物用焼却炉などで焼却する。焼却する際は、フッ化水素などの有害性ガス対策を講ずる。
-------	---

1 4. 輸送上の注意

注意事項	: 転倒、落下、破損のないように積み込み、荷崩れの防止を確実にこなう。水漏れ、高温放置、直射日光を避ける。
米国の道路・鉄道法令情報	: 該当しない
国際海上（IMDG）	: 該当しない
国際航空（ICAO/IATA）	: 該当しない

1 5. 適用法令

消防法 指定可燃物（合成樹脂類）	: 非危険物
外国為替及び外国貿易法	: 輸出貿易管理令、別表第1の16項に記載する貨物に該当。
労働安全衛生法	: 非該当

特定有害廃棄物輸出入規制法 (バーゼル法) : 廃棄物の有害成分・法第2条第1項第1号イに規定する
(平10三省告示1号)

16. その他の情報

記載内容は現時点で入手できる資料、情報、データに基づいて作成していますが、含有量、物理化学的性質、危険・有害性などに関しては、いかなる保証をなすものでもありません。また、注意事項は通常の取扱いを対象としたものなので、特殊な取扱いの場合、用途・用法に適した安全対策を実施の上、ご利用下さい。

【参考文献】

- 1) フッ素樹脂ハンドブック : 日本弗素樹脂工業会
- 2) フッ素樹脂製品取扱いマニュアル : 日本弗素樹脂工業会
- 3) 産業医学 33 277(1991) : ACGIH(1985)
- 4) 既存化学物質ハンドブック(1988)
- 5) 化審法の既存化学物質安全点検データ : 財団法人化学品検査協会
- 6) 化学物質管理促進法対象物質データ : 化学工業日報社
- 7) 米国国立労働安全衛生研究所ーフッ素樹脂熱分解生成物 : 日本弗素樹脂工業会
- 8) GHS対応ガイドライン ラベル及び表示・安全データシート作成基準 (JIS Z7253:2019)

*本書記載内容はAG-06に該当するものであり、類似製品等には一切関係ありません
また、納品を証明するものではありません。

*本書記載内容は、発行日現在のものです。製品使用等、予告なく変更する場合があります
ので、ご了承ください。